

インドネシアの英語教育の特徴

原田 晋[†]

Characteristics of English Education in Indonesia

Susumu Harada

1. 先行研究の課題と研究の方法

2019年まで観光のために日本に来るインドネシアの人々の数が増加していた。また、特定技能の介護分野などで働くインドネシアの人々も多くなってきていた。現在、世界はコロナ禍にあり、人々の海外への往来は極めて少ない。しかし、これが収束すれば、国境を越えた人々の交流が再び活発になると考えられる。

インドネシアの人々を理解する上でインドネシアの文化を知ることは重要なことである。また、インドネシアの人々の外国語教育（英語教育）について知ることはお互いの理解を深めることに役立つと考えられる。両国の人々は英語を外国語として学んでいるからである。では、インドネシアの文化や英語教育にはどのような特徴があるのだろうか？

森山（2015）はインドネシアと日本の人格形成教育の比較をしている。大きな相違はインドネシアの公立学校では日本にはない宗教の時間があるということであった。インドネシアで人格形成教育の源泉となっているものは、5項目からなる国是である「パンチャシラ」の価値観と倫理である（森山，2015）。「パンチャシラ」については後述する。プレハントロ・石塚（2014）はインドネシアと日本の高等学校における英語教育の特徴を比較している。インドネシアでは「核心能力，基礎能力」の育成を通じて宗教的要素，社会的要素，英語によるコミュニケーション能力の統合が目標とされるが，日本では宗教的な要素がないことが明らかにされた（プレハントロ・石塚，2014）。

両国の文化的特徴によって生まれる違いを考察するためには文化を相対的に捉える必要がある。ホフステード・ホフステード・ミンコフ（1995）は他の文化と比較した時に相対的にとらえることができる文化の側面として「権力格差」「集団主義—個人主義」「女性らしさ—男性らしさ」「不確実性の回避」「長期志向—短期志向」「放縦—抑制」の六側面を提示した。「権力格差」とはそれぞれの国の制度や組織において権力の弱い成員が権力が不平等に分布している状態を予期し，受け入れている程度である。「集団

主義—個人主義」において，集団主義を特徴とする社会では人は生まれた時からメンバー同士の結びつきの強い内集団に統合され，その集団から保護されるが，個人主義を特徴とする社会では個人と個人の結びつきはゆるやかである。「女性らしさ—男性らしさ」において，女性らしさを特徴とする社会では男女の性役割が重なり合い，男性も女性も謙虚でやさしく生活の質に関心を払う。男性らしさを特徴とする社会では男女の性役割がはっきりと分かれ，男性は自己主張が強たくたくましく物質的な成功をめざす。「不確実性の回避」とはある文化の成員があいまいな状況や未知の状況に対して脅威を感じる程度のことである。「長期志向—短期志向」において，長期志向を特徴とする社会では未来の報酬を志向し，忍耐や儉約，環境の変化への適応のような実践的な徳が育まれる。短期志向を特徴とする社会では過去と現在に関係する徳，特に国家の威信，伝統の尊重，社会的義務の遂行が育まれる。「放縦—抑制」において，放縦を特徴とする社会では人生を愉快地に楽しむことに関係するような人間の基本的で自然な欲求が相対的に自由に満たされる。抑制を特徴とする社会では欲求の充足を抑え，厳しい社会的規範によってそれを規制する。

このホフステードの概念により，インドネシアの文化の特徴を相対的に捉え，それがインドネシアの英語教育にどのような特徴として現れるのかを考察することが可能となる。具体的には次の3つのことを明らかにしたい。

1. インドネシアの英語のカリキュラムには，どのような特徴があるだろうか？
2. インドネシアの英語の教科書には，どのような特徴があるだろうか？
3. その特徴はどのようなインドネシアの文化的背景から生まれたものだろうか？

2. インドネシアの文化の特徴

表1は国民文化の6つ次元におけるインドネシアと日本のホフステード指数を比較したものである。

[†] 2019年度修了（人文学プログラム）

図1 インドネシアと日本のホフステード指数比較

国民文化次元	ホフステード指数値範囲	インドネシアホフステード指数	日本ホフステード指数
集団主義—個人主義	6~91	14	46
女性らしさ—男性らしさ	5~110	46	95
不確実性の回避	8~112	48	92
短期志向—長期志向	0~100	62	88
抑制—放縦	0~100	38	42
権力格差	0~104	78	54

日本と比較するとインドネシアは「集団主義」、「女性らしさ」が強い社会である。また、「不確実性の回避」の弱い社会である。ホフステード指数ではインドネシアは「長期志向」の社会に属すると言えるが、日本との差は26と大きい。インドネシアは日本より「短期志向」を示す要素があると考えられる。「抑制度」は日本と同じくらいに高い。インドネシアの「権力間格差」は高い。本研究ではこれらの違いが英語教育のカリキュラムや教科書に反映されているかどうかを検討した。

3. インドネシアの文化概念

3.1 パンチャシラと教育理念

次にインドネシアの教育を考察する上で重要となる文化概念について考えてみたい。

インドネシアは独立する際、パンチャシラ（五つの原理）という国是を定めた。「全知全能の神への信仰」、「公正にして礼節に富む人道主義」、「インドネシアの統一」、「代議制による英知に導かれる民主主義」、および「社会的正義の実現」である。土屋（1991）によれば5原則の中で最も重視されているのは、第1原則と第4原則である。このことについて次の通りに説明している。「つまり、宗教の如何を問わずに「唯一神への信仰」者であること、そして「代議制によりながら」しかも「英知に導かれる」民主主義を政体とすることである。このうち、「英知に導かれた」というのが、この民主主義のエッセンスであろう」（土屋, 1991, p. 244）。また、次のようにも述べている。「インドネシア民族主義が、自らの伝統的価値を再発見し再定義して政治思想としてねりあげてきたものが「英知」という理念である。この英知は制度や機構ではなく、特定の個人、つまりはすぐれた指導者に帰属している。必要な場合には、規則や規約よりも指導者の「英知」が優先す

る」（土屋, 1991, p. 244）。

インドネシアが独立するに際して定めた国是（パンチャシラ）について、土屋（1981）はインドネシア民族主義運動で重要な役割を果たしたタマン・シスワ学校の抱えていた課題を次のように考察している。即ち、民族主義運動の過程で、「人民運動の担い手と人民とが、闘争を通じて帰一（manunggal）し、その証として、ともに分かちともに感応しあう—平等連帯という状況が出現するという思想」（土屋, 1981, p. 80）が生まれた。タマン・シスワ学校における民族主義運動において、「等しく分かちともに感応し合う」、「平等連帯」という理念の実現が課題となったのだと言う。この課題のタマン・シスワにおける解決について土屋は次のように述べている。

西洋的民主主義の原理からは「等しく分かち」（sama rata）という理念を導き出せても、「ともに幸福である」（kebahagiaan sama）という理想は実現されえない。この二つの要請に応えるためにタマン・シスワは「民主主義と指導性」という理念を掲げたのである。

それは教育理念に関してはtut wuri andayani（トゥツ・ウリ・アンダヤニ）というジャワ語のスローガンとして結実した（土屋, 1981, p. 492）。

このような理念がインドネシアにおける「家族主義」の根幹である。また、トゥツ・ウリ・アンダヤニはジャワ語であり、次の通りの意味を持っている。

教え子の後ろからつきしたがっていくが子どもから注意をそらさないという意味である。後ろからついてゆくことは子どもに自由な道を選択させるという点において民主主義であるが、必要に応じてこれを指導するのは教師の「明察性」kebijaksanaanに他ならない。（土屋, 1981, p. 492）

このように「民主主義と指導性」はインドネシアにおける重要な教育理念でもある。

3.2 ゴトン・ロヨン

ゴトン・ロヨンは「一緒に仕事をする」「大勢で一緒に物を運ぶ」などを意味するジャワ語であった（楳沢, 2007a）。

日本軍政期に「ゴトン・ロヨン」という言葉に「助け合い」（相互扶助精神）、奉公精神の意味が与えられた。インドネシア共和国建国当時（1940年代）において、パンチャシラ（建国5原則）はゴトン・ロヨンに集約するものとされ、ゴトン・ロヨン思想は、パンチャシラ思想そのものでもあり、インドネシア国民とは何かを示す思想であった（楳沢, 2007a）。現在、ゴトン・ロヨンは合作、連帯、相互扶助、家族的一体感などの意味を持ち、パンチャシラ第

5原則「全インドネシア国民に対する社会的公正」を表す概念として位置づけられている。

4. インドネシアの英語教育の特徴

4.1 インドネシアの英語カリキュラム

ホフステードの国民文化次元の分類においてインドネシアの文化概念を具現していると考えられるインドネシアの英語カリキュラムの文言について考察する。ここでは KOMPETENSI INTI DAN KOMPETENSI DASAR BAHASA INGGRIS SMP/MTs 2016 (2016年中学校の核心能力と基礎能力)の文言の一部を考察する。これは、日本の中学国学習指導要領にあたるものである。

集団主義の強い社会

中学校英語カリキュラム序文で「相互扶助」の語句が出てくるが、これは「集団主義」の価値観を反映していると思われる。この語句は「社会的要素は、社会や自然環境のなかで創造物とその周囲に効果的に関わり、自信、礼儀、思いやり(寛容、相互扶助)、を持ち、正直な行動、規律ある行動、責任ある行動をすることを意味する」(kementerian Pendidikan dan kebudayaan, 2016, p. 1, 筆者訳)という形で使われている。ここではゴトン・ロヨン、あるいはパンチャシラ第5原則「すべてのインドネシア国民に対する社会正義」、あるいは、「家族主義」の概念が具現化されていると考えられる。

女性らしさの強い社会

インドネシアのカリキュラムの中に、精神、礼儀、宗教、祈り・祝辞・賞賛などの行為、思いやりと寛容、他者を尊重などの語句がある。これらは「女性らしさ」の価値観を反映していると思われる。中学カリキュラム序文には次の通りの記述がある。

カリキュラムの目的には、4つの能力、すなわち、(1) 精神的要素、(2) 社会的要素、(3) 知識、(4) 技術がある。上記の能力はカリキュラム内で、カリキュラムと併行で、あるいはカリキュラム外で達成される。精神的要素は宗教の教えを尊重し、理解することを意味する。社会的要素は、社会や自然環境のなかで創造物とその周囲に効果的に関わり、自信、礼儀、思いやり(寛容、相互扶助)を持ち、正直な行動、規律ある行動、責任ある行動をすることを意味する。(kementerian Pendidikan dan kebudayaan, 2016, p. 1, 筆者訳)

また、カリキュラム本文の中学3年生の基礎能力(3.1)には次のような記述がある。

使用のコンテクストに応じて、口頭および筆記で、人と人との関わりにおいて、希望を述べる行為、祈る行為、そして、幸福や達成に対しての祝辞などを述べ

る行為に関するテキストの社会的機能、構造、言語的要素を適応できる。(kementerian Pendidikan dan kebudayaan, 2016, p. 8, 筆者訳)

上記はパンチャシラ第1原則「唯一神への信仰」(楳沢, 2007b)によるスカルノ大統領の言葉である「各宗教が互いに尊重しあつての神への信仰」にみられる)を具現化していると考えられる。

不確実性の回避の弱い社会

インドネシアのカリキュラムの中に見られる文法事項は抽象的な表現が多い。また、日本と比較するとインドネシアのカリキュラムに見られる文法事項は少ない。また、インドネシアのカリキュラムの中に発音、アクセントについての記載はないし、インドネシアのカリキュラムの中には覚えるべき語彙(数)も示されていない。これらのことはホフステードの「不確実性の回避」弱さとして現れたものだと考えられる。

また、これらのことは、「トゥツ・ウリ・アングヤニ」、あるいは、パンチャシラ第3原則「インドネシアの統一」(楳沢, 2007b)におけるスカルノ大統領の言葉である「社会的背景を異にする人々の間の連帯」という言葉を具現化していると考えられる。ホフステード理論において、「あいまいさと混沌への寛容さがある」及び「民族について寛容である」ことは不確実性の回避の弱い社会の特徴である。

また、「協議と代議制において叡智によって導かれる民主主義」は集団主義の強い社会の要素と考えられるが、インドネシアにおいて権力格差につながることもある。同様の意味で「トゥツ・ウリ・アングヤニ」も「不確実性の回避の弱い社会」の要素であると同時に権力格差につながることもある。

4.2 インドネシアの英語教科書の特徴

ここでは、ホフステードの文化概念を具現していると考えられるインドネシアの中学校英語教科書の内容の一部を考察する。

集団主義の強い社会の特徴

中学1年2課(This is me!)ではインドネシアの様々な所から来た様々な民族の学生の自己紹介があり、家族に関する語彙を学ぶ。そして、それぞれの家族の紹介をする。インドネシアの多様性と家族主義を感じさせる内容である。中学3年12課(What is it?)では家族、近所、学校についての英文を学ぶ。家族から学校への話題の広がりやインドネシアの家族主義を感じさせる。中学1年7課(I'm proud of Indonesia)は良いものの話題で、それらには Father, mother, brother, teacher, aunt, my cat, my school, classmate, janitor in school, hometown のような例が挙げられている。次にインドネシアについて様々な点から学ぶ。Geography, climates, fruits, Local spices, fish, Indonesian sea animals, Indonesian farm animals などである。そして、インドネシアについての長文を学習する。愛

国心を育む内容である。ホフステード理論において集団主義の強い社会では、愛国心が強いとされるが、ここでもそれがあらわれていると考えられる。

女性らしさの強い社会の特徴

中学2年7課 (My uncle is a zookeeper) では動物にしてあげられることのリストを作成する。「やさしさ」を感じさせる。中学3年1課 (Congratulations) の単元の目標は、「良い人間関係を保つために希望を述べる表現、祈りの表現、そして、幸福や達成に対しての祝辞などを述べる表現を学ぶ」である。中学3年9課 (You get what you earn) は環境、健康について考える内容である。ホフステード理論において女性らしさの強い社会では「男女ともやさしく人間関係を気遣うことができる」、「環境を保護すべきである」という気持ちが強いとされる。これらの内容はその価値観を反映しているといえる。

不確実性の回避の弱い社会の特徴

教科書には学習する文法事項が少ない。発音、アクセントの説明はない。また、新出語の項目はない。ホフステード理論において「絶対に必要な規則以外は必要ない」、「あいまいさと混沌への寛容さがある」ことは不確実性の回避の弱い社会の特徴とされているが、ここではそれがあてはまる。

短期志向社会の特徴

中学3年8課 (We have been to an orphan home. We went there last Sunday.) は他者への奉仕について学ぶ内容である。中学3年10課 (Sangkuriang) は西ジャワの伝説 (民話) について学ぶ内容である。サンクリアンは実際の父親が犬であること知らず、狩猟で獲物を得ることができなかった時に、一緒にいた犬を殺して母親と食べてしまう。そのことが原因でサンクリアンにも様々な出来事が起き、母親と共に死ぬことになる。道徳的な話でもあり、抑制の強い社会にも該当すると考えられる。中学3年11課 (They are made in Indonesia) はインドネシア人であることを再確認し、インドネシアの様々な伝統料理、芸術、工芸品、動物などについて学ぶ。地域の特産物について調べ発表する。伝統を学ぶ内容である。ホフステード理論において短期志向社会では他者への奉仕を重要と考え、伝統を重要と考える傾向が強いとされるが、これらの内容はその価値観を反映していると考えられる。

抑制の強い社会の特徴

中学3年9課 (You get what you earn) は健康、安全の内容であり、タバコの手害、交通規則などの規範的話題がある。ホフステード理論において抑制の強い社会では、欲求の充足を抑え、厳しい社会的規範によってそれを規制する傾向が強いとされる。この内容はその価値観が反映されたものだといえる。

このようにインドネシアの英語の教科書の内容にはホフステードの文化概念に該当していると考えられる内容が多く見られた。しかし、「権力格差」の高さを示していると考えられる内容はなかった。

5. インドネシアの文化と英語教育

インドネシアの英語のカリキュラム (学習指導要領) はインドネシアの文化の特徴を反映している部分が多くあることが明らかになった。教科書はカリキュラムに準拠し作成されるものであるから、カリキュラムの特徴が教科書に反映されていると考えられた。実際に、インドネシアの中学校英語教科書はインドネシアの文化的特徴を多く反映している部分が多かった。

カリキュラムや教科書の特徴はインドネシアの文化の特徴を反映し、インドネシアの文化を特徴づけているものはゴトン・ロヨン、家族主義、トゥツ・ウリ・アンダヤニなどの概念であり、インドネシアの国是であるパンチャシラであることが明らかになった。インドネシアの英語教育の特徴はインドネシアの文化の特徴の影響を受けていることがわかった。

文献

- Kementerian Penedidikan dan Kebudayaan (2016) Kurikulum 2016 Kompetensi Inti dan Kompetensi Dasar, Mata Pelajaran Bahasa Inggris, SMP/MTs.
- Gustien Helena Indyah Ratna, Rd. Gunawan Wawan, Noorman Safrina, M.Pd.ed.2015. Bahasa Inggris, *Think Globally Act Locally*, SMP/MTs Kelas IX. Jakarta: penerbit Pusat Kurikulum dan Perbukuan, Balitbang, Kemdikbud
- 楳沢英雄 (2007a) 「ゴトン・ロヨン思想：インドネシア・ナショナリズムの思想として」『東京外国語大学大学院地域文化研究科博士論文』
- 楳沢英雄 (2007b) 「インドネシア国民創造の思想における変容の言説背景：スカルノのゴトン・ロヨン思想とスタルジョの『デサ論』」『東京外国語大学大学院総合国際学研究科、言語・地域文化研究』13, 17-33
- 土屋健治 (1981) 『インドネシア民族主義研究—タマン・シスワの成立と展開—』創文社
- 土屋健治 (1991) 『カルティニの風景』めこん
- プレハントロ, プトゥット・石塚博規 (2014) 「インドネシアと日本の高等学校における英語教育の特徴比較」『北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編』65(1), 129-149
- ホフステード, G.・ホフステード, G. J.・ミンコフ, M. 岩井八郎・岩井紀子 (訳) (1995=2013) 『多文化世界の違いを学び未来への道を探る』有斐閣
- Hofstede Insights (2018) “Compare Countries” <https://www.hofstede-insights.com/product/compare-countries> (2018年1月22日参照)
- 森山幹弘 (2015) 「インドネシアと日本の人格形成教育の比較」『南山大学紀要』10, 75-92